

第6回 海老名市保護者負担経費検討委員会概要

日 時：平成30年5月22日（火）

15：30～17：00

会 場：えびなこどもセンター 201 会議室

出席者：【委員】

岡田委員長、秋山副委員長、市川委員、中村委員、瀧井委員、
吉崎委員、塩見委員、飛矢崎委員、宮原委員、竹島委員、金指委員、
小宮委員、小林委員

【教育委員会】

伊藤教育長、別府就学支援課副主幹、清水就学支援課係長、
大乘就学支援課主事

1 開会 委員長

2 挨拶 教育長

- ・ジャージに関して、海老名中学校をモデル校としてコンペを行う。
- ・制服に関しても改善の余地はある。
- ・教員時代に修学旅行を計画する際、30人×3クラスでバスを2台にするか、3台(クラスで1台)にするか保護者アンケートを行い、結果3台で行った。
- ・中学校は5～6万円位する。
- ・修学旅行は教育課程のため、学校に裁量がある。

3 議題

- ・4月の人事異動により、委員の追加、変更及び事務局職員に変更があった。

【委員】

- ・小宮教育部次長（学校教育担当）
- ・小林就学支援課長

【事務局】

- ・清水就学支援係長

(1) 制服・ジャージ等の今後の方向性について（前回のまとめ）

- 当日会場に市内6校の制服、1校のジャージ、ハーフパンツを展示し、委員会開始前、終了後に各委員に見てもらった。

【事務局にて概要等説明】

- ・制服
 - ① 各校の仕様書を作成し、業者に広く周知することによって、取扱店・販売店の拡大を図り、保護者負担を軽減させる。
 - ② 市ホームページに各校の制服・ジャージの販売店・価格等を公開することで入学以前から保護者が情報を入手できるようにする。

- ・ ジャージ（上下）
 - ① 各校で選定委員会を組織し、ジャージの仕様書を作成した上でコンペを行う。
 - ② 決定業者との契約期間は3年～5年とする。
- ・ 上履き（兼体育館履き）
 - ① 各校で選定委員会を組織し、上履きの仕様書を作成した上でコンペを行う。
 - ② 決定業者との契約期間は3年～5年とする。
- ・ 運動用 T シャツ・短パン・Y シャツ・ポロシャツ
 - ① 上記については、仕様を定めた上での自由化が望ましい。
 - ② 既に実施している学校もあるが、全ての学校が平成 31 年度入学生からの実施が望ましい。
 - ③ 学校で指定していないものについても、制服販売店で推奨品としていられることもあるため、学校から保護者に対し、基本仕様に沿ったものであれば、制服販売店以外でも自由に買えることを周知する必要がある。

【意見等】

- ・ ジャージのカラー（学年色）の必要性についてご意見伺いたい。
 （岡田委員長）
 - ジャージのラインや氏名の刺繍の糸を変えている学校もある。
 - 有馬中学校は上履きのラインの色を変えている。
- ・ 学年色で販売価格に差があるのか。
 - 価格差を事務局で確認すること。（岡田委員長）
- ・ 学年色があると兄弟間での着回しができない。
- ・ 学年色に関わらず、子どもにもよるが3年間着用するとボロボロで着回しはできなかった。
- ・ 先生の学年色についての考えは。
 - 学年で色分けがあれば、便利ではある。
- ・ 上の子のジャージを下の子で使用できると家庭にとっては大きい。
- ・ 氏名の刺繍はマジックテープでもいいのではないかと。作業着とかでもよくある。
- ・ リサイクル店、バザーの活用や刺繍の必要性の検討が必要である。子どもが通う高校では、ジャージは全学年同じもので、市販されているものにワッペンを付けている。運動会では、学年ごとに鉢巻きの色が分かっている。
- ・ 学年色についても、提言に盛り込みたい。（岡田委員長）

(2) モデル校でのコンペ実施について

【事務局にて概要等説明】

- ・ 目的

今年度に先行モデルとして、1校でコンペを実施することで、

①保護者負担軽減の効果を図ること

②コンペ実施のノウハウを蓄積させ効率的に実施できるようにすること

・コンペ実施校

海老名中学校

・コンペ対象

ジャージ（上・下）、（上履き（兼体育館履き））

【意見等】

・ジャージ、上履きは業者ごとに得意、不得意がある。上履きの取扱い業者は参入できなくなってしまう。今回は別々がいいのではないか。

・今回は学校としても初めての試みなので、ジャージだけでのコンペ実施でお願いしたい。

→コンペの対象やその他詳細については学校と事務局で調整して進めてもらいたい。（岡田委員長）

・コンペ自体は賛成している。ジャージの現状（1社のみでの取扱い）はよくない。

・次回以降の検討会で情報提供していきたい。（岡田委員長）

(3) 修学旅行の課題と保護者負担軽減策について

【事務局にて概要等説明】

・修学旅行の課題について、保護者アンケートの意見も紹介しながら提示

・保護者負担軽減策の現状と新たな軽減策について説明

【意見等】

・小学校の費用はどのくらいかかるか。

→概ね2万円くらいとなっている。

・野外教育活動（5年生実施）の補助金をトータルの公費負担額は変えずに修学旅行と分けても（現状で野外教育活動の補助額が一人あたり1万円であれば、5千円ずつなど）のいいのではないか。また、野外教育活動と修学旅行のバス代を市費で負担してみてもどうか。とにかく、バス代がかかる。市教委が介入することで宿代、バス代が下がるといいが。

・民泊先の当たりハズレが見えすぎている。その為に不満が出ているのではないか。保護者の経験則からは民泊の理解は得られないと思う。また、同じ金額で差が出るのは不平等であると感じる。

・民泊になってから不平等感がある。保護者が修学旅行の内容を気にしだした。修学旅行の内容の不満が金額の不満につながっていると思う。民泊の内容が見えていない。学校としても全ての民泊先での体験内容を把握していないのではないか。全ての民泊先での状況を学校が把握できれば改善されるかもしれない。

・個人的には経験という意味では民泊でも旅館でも構わないと思っている

が、修学旅行はみんなで行くのが楽しいとも思う。小学校の日光は親も
行っているので共有できるのはいいと思う。

- ・今年、子どもが中一になり、保護者説明会で修学旅行の説明があったが、
丁寧で十分理解できた。
- ・全ての中学校がホテルに泊まれば不満は出ないと思うが、民泊の良さあ
るので、難しい。
- ・学年ごとに違いがある。学年担当教諭全員で真剣に内容や行先を考えた
が思いが先行し、金額面はあまり配慮しない場合もあった。
- ・海老名中学校は保護者からの苦情はホテル泊にしてからは1件もきてい
ない。学年間での考えの違いがあり、学校としてブレが出てしまう。そ
のため、委員会を学校内に立ち上げ、学年間でブレないように学校とし
ての方針を定める予定。
- ・金額を下げるには、行先を近場にするやホテルのグレードを下げるとい
ったことが考えられる。ただ、一生に1回なので安くても質の低いホテル
よりは一定の質のホテルがいいと思っている。
- ・額面を下げるのも保護者負担軽減の一つだが、負担感の解消も軽減の一
つだと思う。プロセスを丁寧にし、企画段階から保護者にも入ってもら
うことが必要だと思うがどう思うか。(岡田委員長)
- ・1年生の12月に行先を決定している。ていだんを利用すると安くなる。
5万円を切る年もあった。
- ・早い段階で入ってもらうのはなかなか難しいと考えている。金額は一般
的なツアーと比較すると基本設定が高い。
- ・民泊先での差はあまりないという認識をしている(各民泊先で提供する
食事の金額は決まっているはず)。
- ・経済的に苦しい家庭でも、保護者は修学旅行には必ず参加させている。
普段は家族旅行ができないが、せめても、修学旅行は行かせたいという
思いがあると思う。福祉サイドで関わりのある方よりそのような話を聞
いた。
- ・野外教育活動で利用している東山荘は、教育委員会の関わりで例えば通
常利用料が5,000円かかるところをスケールメリットということで4,000
円ということができた。バスもまとめることで金額の低減が図れた。
- ・現状、旅行会社への支払いはコンビニでも可能でそういった利便性は高
まっている。保護者への説明は丁寧にする必要はある。バスに関しては、
安さを求めるのもいいが、それより安全性を求めたい。
- ・一括発注は学校毎ではなく、市教委で各校をまとめれば価格の低減が期
待できる。条件に安全性の担保を入れればいい。
- ・民泊の場合、先生はどこに泊まっているのか。
→民泊はしていない。ホテル程ではないレベルのところに泊まっている。

- ・海老名中学校はどのように保護者に対して周知しているか。(岡田委員長)
→2年と3年の保護者会で説明している。特に1年生の時にはしていない。保護者も京都奈良で分かっているから安心していると思う。
- ・小学校は6年生になってから説明をしている。行先に対する意見等はない。質問は主に持ち物で出ている。
- 一括発注等の軽減策については、業者に聞き取りをし、実現性について精査していきたい。
- 制服などの仕様書については、すぐにでも備えたい。
- 今後のスケジュール感も含めて報告書(案)としてまとめていきたい。
(岡田委員長)

4 その他

(1) 今後の予定

- ・第7回検討委員会

7月25日(水) 15:30～ えびなこどもセンター201会議室

5 閉会 秋山副委員長

- ・制服の実物の展示があり、各校で比較できてよかった。修学旅行は課題があるがまとめてもらいたい。